



～2025-26年度主題～

- 国際会長 エドワード・オン (SG) “Faith, Love, Action”
- アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさしC) “信念と愛をもって行動しよう！”
- 東日本区理事 山下 真 (十勝C) “ワイズらしさ再発見”
- かながわ部長 兵藤 芳朗 (鎌倉C) “共に歩み 交流を深め、部の「絆」を強めよう”
- クラブ会長 坂口 直樹 “お互いを理解し誰かの役に立つ！”

今月の聖句

自分を低くして、  
この子どもようになる人が、  
天の国でいちばん偉いのだ。

(マタイによる福音書 第18章4節)

5月の本例会

日時 5月23日(土)16:00-18:00  
場所 横浜北YMCA  
司会 坂口直樹 報告 鈴木茂

～議事～

1. 開会点鐘 会長
  2. ワイズソング・信条唱和 全員
  3. 今月の聖句・祈祷 担当主事
  4. 会長挨拶 会長
  5. ゲスト・ビジター紹介
  7. 協議・報告事項・行事予定等  
・20周年記念例会の準備進捗  
・かながわ部合同交流会  
・Y-Y's懇親会、等々
  8. Happy Birthday  
・ロブさん(5/4)  
・鈴木茂さん(5/21)
  9. スマイル・アピール
  10. 閉会点鐘 会長
- ※終了後、Y-Y's懇親会に参加  
@さかな酒場 魚星

《巻頭メッセージ》

大野 君枝

昨年から体調を崩して長期入院していた私は、世の中の動きを、テレビやインターネットを通じて知るしかなく、その中で、パリの冬季五輪で、【りく・りゅうペア】が、7年間の努力、鍛錬を持って、金メダルを勝ち取ったニュースはとても嬉しかったです。その美しい演技には大変感動させられました。



しかし後は世界に次々と飛び火してしまった戦争の映像ばかりで、その悲惨な状況を見ても何一つ出来ないちっぽけな自分に、気持ち晴れることがありませんでした。

旧約聖書創世記12章3節には「あなた(イスラエル民族の祖アブラハム)を祝福する者をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」というみ言葉があり、ディスペンテーション主義の人達は、「選ばれた神の民イスラエルは守らなければならない」という錦の御旗をかかげて、戦争の正当性を主張しているのだと聞きました。しかし、イスラエルによる爆撃で、家族や親しい人を失い、住む家を失い、財産のすべてを破壊された人々には、この解釈は到底受け入れられないことでしょう。私も福音派の一人として、納得できない苦しい気持ちでいます。戦争は、今は遠い国の出来事でも、いつかこの国にも波及してくるかもしれません。その時自分はどう受け止めるのか、どう理解し、耐えられるのか、全く想像もつかず、怖いです。

今、私は介護保険の下で十分な医療を受けられて、夜も安心して眠れる環境にあります。瓦礫の中で苦しむ人々と比べると、何と幸せなことでしょうか。

争いの解決には、敵を破壊する武力ではなく、話し合いと歩み寄り以外にはないでしょう。1日も早くその場が持たれますように願っています。

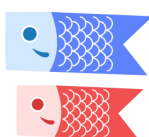
「どうか愛ある神様の御力で、戦禍の人々には早く平和な時間を。そして、今の困難から立ち上がる強い力を与えてくださいますように。」と切に祈るばかりです。(了)

クラブ役員一覧

- 会長 坂口 直樹
- 副会長 今城 高之
- 書記 今城 宏子
- 会計 鈴木 茂
- 直前会長 鈴木 茂
- 監事 辻 剛



4のデータ



例会出席	17名	在籍会員数	16名
メンバー	9名	月間出席者数	9名
ビジター	9名	メ・キャップ	1名
ゲスト	—	月間出席率	62%

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

## 《会議報告》

2026年4月度本例会報告

鈴木 茂

日時:2026年4月24日(金)17:30-19:15

場所:かけはし都筑

司会:坂口直樹

出席者:今城T・H、エスキルドセン、坂口、鈴木S・K、  
三木、森山(8名)ビジター:田中博之(卓話者・東京多摩みなみC)、  
秋元美晴・古田和彦(横浜C)  
兵藤芳朗・藤井千枝子・千葉裕子(鎌倉C)  
久保勝昭・久米康子・中村純子(つるみC)  
(9名/敬称略)

## 【議事次第】

1. 開会点鐘 坂口会長
2. ワイズソング・ワイズの信条  
一同
3. 今月の聖句と祈祷 森山担当主事  
ヨハネによる福音書16章24節
4. 会長挨拶 坂口会長
5. ゲスト・ビジター紹介 坂口会長
6. 卓話・「今そしてこれからの私たち」(第2回目)  
講師:田中博之さん

- \* 田中博之さんは東日本区理事・アジア太平洋地域会長等を歴任された、ワイズの第一人者。昨年11月に、今回と同一テーマで卓話をお願いしたが、その時は現状説明でほとんど時間切れとなり、現状打開・改善策についての説明に十分な時間を割くことができなかった。今回は、当クラブからのお願いで再登板いただいたもの。
- \* 低迷するワイズ東日本区の現状に対処し、かつ2022年に発表されたワイズ国際協会(YMI)の中期計画「戦略2032」に呼応して、東日本区は将来のあるべき姿とその実現に向けての諸施策を検討、策定するために、「東日本区チーム・イノベーション」を2023年に発足させたが、田中さんはその中心になられた方。
- \* 「東日本区チーム・イノベーション答申」は2024年6月に公表されたが、そこではワイズの5年後のあるべき姿を、①YMCAとの関係、②ワイズメン/ウイメンの姿、③組織、④活動/事業、⑤ユース、⑥会員増強の6項目にわたって描き出している。
- \* 6項目の中で筆者が最も関心を持ったのは、⑥の会員増強の進め方である。会員増強の施策として「チーム・イノベーション」は次のような具体策を提案している。
  - (1) 各クラブに3-5人のチームを作り、チームごとに年間1名の入会者を目指す。
  - (2) 都市、部、区レベルで入会候補者を集めて、イベントを開催する。
  - (3) 楽しみながら参加、推進できる会員増強キャンペーンを展開する。
  - (4) クラブの特徴に合ったターゲット層を明確にし、集中的にアプローチする。
  - (5) 若い人たちの入会を促進する施策を実施する(区

- 費の青年会員優遇など)。
- (6) エクステンションを推進する施策を実施する(区にエクステンションサポートチーム設置など)。
- (7) クラブの解散、退会者を防ぐ施策を実施する(過去のクラブの解散、退会理由の収集、分析など)。

以上のような施策提案を受けて、区、部、当クラブは何らかの具体策を講じることが問われていることを痛感させられた。

7. 今後の行事計画
    - ・5月16日(土):かながわ部合同交流会、横浜YMCA三浦エコビレッジ。
    - ・5月23日(土):5月本例会、横浜北Y-ワイズ懇親会。
    - ・6月2日(火):第110回Y-Y's協議会、中央YMCA、担当・横浜つづきクラブ。
    - ・6月6日(土):東日本区大会、石巻河北総合センター。
    - ・6月7日(日):みやま荘、つばめの杜保育所訪問予定、今城T・H、坂口、鈴木。
  8. YMCA報告  
森山担当主事
    - ・5月30日(土):横浜YMCA会員総会、@湘南とつかYMCA、14:00-17:00。
    - ・6月7日(日):「ビルマ・プラットフォーム、横浜YMCA・BAPY」支援コンサート、聖光学園ラムネホール、15:00~。
  9. Happy Birthday
    - ・鈴木恭子さん(4/9)、福島佐世子さん(4/17)。
  10. 閉会点鐘  
坂口直樹会長
- 以上



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

「善を行い、平和を願ってこれを追い求めよ。」(ペトロの手紙 I 3章11節)

ら社会の中で活かされ、多くの人を支える力となっていくことを願っています。

4月より、菊名小キッズクラブでは125人の新1年生を迎え、登録者数は400名を超えました。毎日、多くの子どもたちの笑顔と元気な声に包まれながら、新年度の活動がスタートしています。子どもたちが安心して過ごし、安全に活動できる環境が守られているのは、日々寄り添ってくださるリーダーたちの存在があるからです。心より感謝しています。



先日、就職などを機に活動から離れたリーダーたちから、温かなメッセージが届きました。「子どもたちとたくさん遊べて楽しかった」「久しぶりでも温かく迎えてもらえた」「みんなからもらった手紙を今も読んでいます」、言葉の一つひとつから、子どもたちやリーダーたちとの関わりが、かけがえのない時間であったことが伝わってきました。



キッズクラブでの活動は、ただ子どもたちを見守るだけではありません。子どもたちは、人との関わりの中で優しさや思いやりを学び、リーダーたちもまた、子どもたちから多くのことを学びます。時にはぶつかり合いながらも、互いを理解しようとする経験が、人を成長させます。

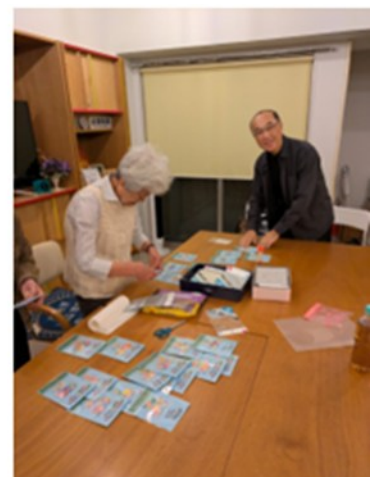
聖書の言葉にある「平和を願ってこれを追い求めよ」とは、自ら善を行い、誰かのために行動することなのだと思います。子どもたちのために力を尽くしてくれたリーダーたちの働きも、その実践なのだと思います。

YMCAでの経験を通して育まれた思いや行動が、これが

6月20日(土)には、クラブの創立20周年を記念して「記念例会」が行われます。大勢のお客様を迎えての記念例会、講演会(会員のロブさんによる)、音楽演奏会、懇親会などが計画されています。クラブ会員の皆様は、健康が許す限り、奮ってご参加いただきますよう、スケジュールを空けてご準備ください!



【TKB報告】5月の誕生カードは絵柄が鯉のぼり。事務例会終了後、普段、手を出さない男性陣も手伝って鯉のぼりの折り紙をカードに張り付ける作業に精を出しました。つばめの杜保育所は19名、みやま荘(高齢者施設)は6名の方々が5月の誕生カードを受け取られます。喜んで頂ければ嬉しいな!



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

## 《ご案内》

## 横浜つづきクラブ創立20周年記念行事計画

実行委員長 鈴木 茂

私ども横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブは、2006年5月13日に「東京コスモスクラブ」・「横浜ノースクラブ」・「横浜クラブ」の3クラブをスポンサークラブとして、国際協会加盟認証状伝達式（チャーターナイト）が執り行われ、正式クラブとして発足しました（会員数20名）。今年は創立20周年を迎えることとなります。設立当初の会員のうち、現在も8名の会員が健在であります。

20年の歴史の中では様々な出来ごともありましたが、何とかその歩みを続けて来ることができたのは、ワイズ内外の多くの方々のご支援、ご協力があったからこそであり、私どもは謙虚に感謝しなければならないと思います。この感謝の思いを込めて、私どもは来る2026年6月20日（土）14:00より、横浜北YMCAにて「創立20周年記念会」を開催する予定であります。お世話になったスポンサークラブの方々、かながわ部や東日本区の諸クラブの方々、YMCAの方々などにご案内して、ご出席をお願いしたいと考えています。

記念例会では、横浜YMCA総主事、東日本区理事、かながわ部部長などをお招きして、ご挨拶をいただきたいと考えていますが、お忙しい方々ばかりですから、当方の日程とご都合が合うことを祈るばかりであります。次に、記念例会では当クラブ会員・ロバート・エスキルドセン（ICU副学長）さんより、「日本の近代史における横浜の役割」と題する卓話を予定しています。どうぞご期待ください。また、記念例会では当クラブの20年の歴史を振り返る写真の「スライドショー」を披露したいと考えています。

記念例会後の懇親会等では、板崎淑子ワイズ（鎌

倉クラブ）が所属するグループの方々によるヘルマンハーブの演奏、小松伸史ワイズ（大和クリエイティブYサービスクラブ）によるトランペット演奏、中央YMCA運営委員の富山姫路子さんによるフルート演奏、久保勝昭ワイズ（横浜つるみクラブ）によるギター演奏などを予定しています。どうぞお楽しみください。

20年の歴史を振り返りますと、様々な思い出がよみがえりますが、私どもクラブ会員にとってまず思い起こすことは、横浜つづきクラブ最大の活動プログラムであるYou & Iコンサートであります。

「障がい児・者と共に楽しむクラシックコンサート」をモットーに、2011年にスタートし、途中コロナによる中断はあったものの、13回も続けることができましたことは、大きな喜びであります。

さらに、2011年の東日本大震災後継続している、被災地・宮城県亘理郡山元町の老人施設「みやま荘」ならびに「つばめの杜保育所」への支援活動も、当クラブにおいては重要な活動プログラムになっています。当初数年間の訪問・慰問活動から、現在はTKB（女性会員）による「お誕生日カード作り」が主体になっていますが、被災地の方々を覚える活動として、15年間続けてくることができましたことは、うれしいことです。

その他、富士山YMCAへの一泊二日のバス旅行を中心とするさまざまなバス旅行を楽しんできましたが、最近では会員の高齢化等に伴って継続が困難になってきたことは、寂しい限りであります。横浜つづきクラブが、今後細くとも永く存続することを祈りたいと思います。以上

## 《寄稿》 送迎ボランティアのバトンを繋ぐ

つづきクラブのCS活動として10数年継続してきた「送迎ボランティア」。これまで活動を記録に残す機会がありませんでしたが、担当者の高齢化により代替わりを検討すべき時期を迎えた今、その歩みを本プリテンに記すことにいたしました。

支援先であるNPO法人「枝福祉ホーム」が運営するグループホーム「ぼけっと」（都筑区花見山）には、障がいを持つ方々が共同生活を送っています。私の役割は、住人の一人であるSさんを、川崎市生田にある作業所「なしの実」まで毎週月曜日に送り届けることです。

往路・復路ともに約30km、それぞれ90分ほどを要する道のりです。Sさんは歩行が困難で車椅子を必要とするため、車椅子を畳んでトランクへ出し入れする作業は、正直なところ老体にこたえるようになってきました。本来、作業所へは送迎バスを利用するのが一般的ですが、Sさんの場合は遠方かつ単独の通所となるためバス便がなく、私たちの支援が不可欠な状況です。

ディズニーをこよなく愛するSさんは、非常に博識で思慮深い方です。言葉に若干の不自由はありますが、時折語られる鋭い知見にはいつも驚かされます。大きな喧嘩をすることもなく

10数年。今や月曜の送迎は、私の生活の大切なルーティーンとなりました。

しかし、私自身も免許返納を意識する年齢となり、いつまで安全に運転を続けられるかという不安も拭えません。私が辞めることでSさんの通所が途絶えてしまうことは、何としても避けたい事態です。この大切な活動を次世代へ繋ぐべく、いよいよ後継者探しを始めようと思う今日この頃です。 今城 高之



“To acknowledge the duty that accompanies every right”